

Agri Culture

第44号(2013年1月1日)

有グノカルチャー

〔発行元〕

有田振興局地域振興部農業振興課

有田郡湯浅町湯浅 2355-1

TEL: 0737-64-1273

FAX: 0737-64-1274



新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平素は、県行政とりわけ農業振興に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の経済情勢の低迷はなかなか浮上する様子がなく、消費の低迷、デフレが続いています。農産物の販売でもスーパー等の売上が伸びない中、より安く売る店には行列ができるという安値競争が激化しています。その反面、品質の良い物、こだわりのある商品は高くても売れており、決して消費意欲は無くなってはいません。消費者の「買って良かった」と言う満足感をどれだけ満たせるかがカギとなるのではないのでしょうか。

県といたしましても、「農業緊急戦略アクションプログラム」を策定し、生産対策・担い手対策・農地対策を実施して高品質生産や生産性の向上を支援しています。また、当課でも有田地域の課題解決に向け、各種施策の活用を図りながら皆様とともに、職員一丸となって取り組む所存でございますので、農業者の皆様並びに関係機関の皆様方には、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



有田振興局 地域振興部 農業振興課 課長 片山 泰弘
職員 一同

農業団体の活動

■ 有田地方農業士協議会

有田地方農業士協議会(256名)では、研修会や情報交換を通じ、生産技術の向上と農業経営の発展を目指しています。本年度は、和歌山大学システム工学部の八木栄一教授を迎え、『農作業の負担軽減！和歌山大学の「パワーアシストスーツ」』と題して講演と実演を行い、実際に農業士会員がスーツを試着し重量物運搬の体験を行いました。

また、農業士協議会女性部会では、『会員同士の交流と地域の魅力再発見』をテーマに、有田川町清水地域の会員の鉢物の経営状況や清水地域の特産品である山椒の利用状況の視察などを行いました。



■ 有田地方4Hクラブ連絡協議会

有田地方4Hクラブ連絡協議会(43名)では、経営や栽培管理技術の向上など、有田地域の若手農家の活性化に向け様々な活動に取り組んでいます。本年度は、お互いの知識や技術を競い合う技術交換大会を開催し、成績優秀者12名が有田地方の代表として和歌山県農村青少年技術者大会に出場し、上位入賞をしました。

また、有田地方農村青少年交流会を開催し、農業公園ハーベストの丘の散策やマイカップヌードル作り、懇親会をとおして女性参加者との交流を深めました。

その他にも、ソフトボール大会で交流を深めたり、有田地方青年農業者会議(プロジェクト発表)や栽培技術の研修会等を開催し、お互いの資質向上に取り組んでいます。



■ 有田地方生活研究グループ連絡協議会



生活研究グループ連絡協議会(220名)では、郷土料理の伝承や地域食材を使った加工品開発・料理提案など地域に根ざした食育・地産地消活動に取り組んでいます。7月のリーダー研修会では、会員間の情報交換と加工技術向上を目指して地元特産の「山椒」と話題の「塩麴」を使った農産加工実習を実施しました。

■ 有田ネット21

有田ネット21(35名)はパソコンを農業経営に活用しているグループで、インターネットを活用した全国の農業者との情報交換や、講師を招いての農業技術や経営管理方法の研修会を開催し技術の研鑽を積んでいます。また、有田管内の会員以外の方のパソコン初心者に対しても操作方法を指導するなど、幅広く活動しています。



農業教育支援・食育活動

◎糸我小学校

有田市指導農業士の山崎佳彦氏や地元の方々の協力のもと、アイガモ農法による無農薬の米作りを実施しました。アイガモは小学校で卵から孵化させた後、飼育して、水田へ放しました。また、古代米（黒米）の栽培にも取り組みました。



◎山田小学校

学校応援団（山田地区の農業士等）協力のもと、年間を通じて食農体験を実施しています。児童らは学年ごとに年間の栽培計画を立て、野菜づくりに取り組むとともに、収穫した湯浅なすや白ウリ等を使って地元特産の金山寺味噌づくりに挑戦しました。1月には、収穫した大豆で醤油の仕込みと豆腐づくり体験を実施する予定です。



◎御霊小学校

有田川町農業士会の協力のもと、みかんの花の観察、摘果及び収穫体験を行いました。摘果及び収穫体験では、有田川町指導農業士・玉置博行氏の指導のもと、はさみを持って実際に収穫し、試食を行いました。収穫したてのみかんを「美味しい!」、「甘い!」と何個もほおばっていました。



◎保田小学校

有田市農業士会の協力のもと、地元特産物のみかんの栽培について学ぶ3年生が、摘果（7月）と収穫作業（11月）を体験しました。収穫後の果汁搾り体験では、新鮮で、果実本来の甘さのジュースに大満足でした。



◎梅加工・郷土料理体験

和歌山の食文化や農業により身近に実感を持って理解を深めてもらおうと、管内小学校で梅加工体験と郷土食体験を実施しました。

児童らは、地元農業や農産物の生産状況と栄養・機能性について学んだ後、生活研究グループ員（食育ボランティア）の手ほどきを受けながら、梅干しづくりや地元特産の山椒や温州みかんを使った郷土料理に挑戦しました。

参加した児童からは、「楽しかった」、「初めて山椒を食べたけどおいしかった」、「また家でもやってみたい」といった声があり、地元の農業や農産物に関心を深めるよい機会になったようです。



有田地方環境保全型農業研究会の活動

みかんづくりの「基本」を学ぶ～栽培管理の「勘どころ」はここだ!～

有田地方環境保全型農業研究会(会長:古田耕司氏)は、農業の環境への負荷を低減する知識と農業技術の向上を目的として平成16年1月に設立された団体で、会員のほとんどは有田地域で環境保全型農業を実践しているかんきつ栽培農家です。

平成23年10月より、県果樹試験場の宮本総括研究員を講師に、みかんの基本的な生態生理を再確認することを目的とした研修会「みかん塾」を開講し、栽培管理作業がどのような根拠(=樹体、果実の生態生理や病気、虫の発消長)により行うのかについて、近年の研究成果を交えて学習しました。

この「みかん塾」については、会員でない一般の方にも参加を呼びかけたところ、夜の開催にもかかわらず80名前後の参加がありました。

なかには、遠く新宮市や大阪府から参加された方もおられ、参加者間の交流が図れました。

また、毎回の開講時において、本研究会へ入会申し込みを行う方も居り、会活動のPRや会員数の増加につながりました。

昨年9月の第5回目の「みかん塾」で閉講となりましたが、参加者からは、これまで漫然と行ってきた自身の栽培管理作業について、その背景や根拠を知る事ができて良かったと好評でした。



大勢の参加者が熱心に聴講

おひさまとまと(生石高原蔬菜共撰出荷組合)のブランド化に向けた支援

■ 生石地区における夏秋トマト生産の概要

有田川町生石地区では昭和30年代より、冷涼な気象条件を活かした夏秋トマトの産地として確立されていましたが、後継者不足・高齢化により生産量が減少するとともに、他産地のこだわり農産物の増加などにより販売額も減少していました。

このような中、平成21年3月に糖度7度以上で着色8部以上の3SからM階級の果実を「おひさまとまと」として商標登録を取得するとともに、平成22年度からは「新農林水産業戦略プロジェクト推進事業(H22～H24)」を活用し、高糖度トマト生産に取り組んでいます。

農業振興課では、関係機関と連携し、生産組合とともに、市販されている完熟系品種からより糖度の上がりやすい品種の検討、夏季の温度低下を目的とした遮光資材の検討、タイベックマルチ被覆による糖度上昇効果の検討を行い、産地の活性化に向けて支援を行っています。



おひさまとまと

果樹対策事業

①果樹選果機等の導入

有田市の宮原共選組合において実施された平成23年度果樹立国わかやま活性化(強い農業づくり交付金)事業で果樹選果機が導入されました。(平成24年8月22日竣工)

事業内容

- ・非破壊糖酸センサー・カラーセンサーシステム一式
- ・事業費125,475,000円(補助率1/2以内)

強い農業づくり交付金事業(国庫事業)等を活用することで、集出荷貯蔵施設(選果機導入含)、農産物加工処理施設、農作物被害防止施設などが導入できます。(事業に参加する場合は原則5戸以上必要です)

②果樹産地再生緊急対策事業(県事業)

事業内容:温州みかんの優良品種への改植・土壌水分調節対策(マルチ等)・小規模基盤整備(園内道、平坦化等)・防風対策

※上記の内容を計画されている方は、農業振興課にお問い合わせ下さい。



鳥獣害対策

鳥獣害対策は病虫害対策と同じ農業生産技術です!

適期防除

被害防止対策がよく効く時期があります。

技術と対策

野生動物の生態や収穫時期を考えましょう。
専門技術に基づく適切な防除をしましょう。

- ・捕獲……被害を及ぼす鳥獣を捕獲しましょう。
- ・防護……被害を及ぼす鳥獣によって違います。
- ・環境……野生動物の出没しない集落環境にしましょう。



必要経費

農業費と同じように鳥獣害対策費が必要です。

各市町農作物被害額(平成23年度)

(千円)

	有田市	湯浅町	広川町	有田川町	計
イノシシ	2,432	6,300	3,652	13,014	25,398
サル	0	3,500	2,852	4,928	11,280
シカ	0	2,500	3,840	3,017	9,357
アライグマ	94	0	500	470	1,064
その他	480	0	1,200	704	2,384
合計	3,006	12,300	12,044	22,133	49,483



鳥獣の被害は適正な防護柵で防止できます。

有田地域の防護柵の設置状況

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
17km	21km	188km	151km

防護柵のポイント

- ・防護柵は、見回り、補修などの維持管理が大切です。
- ・設置する場合は近隣の方とよく話し合ってください。
- ・鳥獣種や作物にあった防護柵を設置しましょう。



鳥獣害で困ったら農業振興課鳥獣害担当までお気軽にご相談してください。

情報提供

■ 農業経営管理のすすめ

自家の経営内容を把握するための記帳は根気のいる作業です。

有田振興局農業振興課では、市販データベースソフトを活用してパソコンで簡単に農作業管理から雇用管理、販売管理まで行える有田農業専用のデータベースを構築しました。

農業日誌や資材の購入記録から労働時間等の簡単な分析、出荷伝票や入金伝票などの結果を入力して販売状況を把握することもできます。

随時講習会などを開催しますので、興味のある方は農業振興課までお問い合わせ下さい。



■ 新規就農者への補助事業のご紹介 ※採択条件など詳細についてはお問い合わせ下さい。

【事業名】 就農支援資金

【概要】 新たに農業を始めようとする方や、農業経験が無い方を新たに採用しようとする農業法人等に対し、資金を融資します。

【主な対象者】 新規就農者、農業法人 等

【事業名】 青年就農給付金

【概要】 就農時 45 歳未満の新規就農者に対し、就農不安定期間の所得確保のため、年額 150 万円の給付金を支給します。

○準備型：就農前の研修期間（最長2年間）

○経営開始型：就農直後（最長5年間）、人・農地プラン（市町作成）への位置付けが必須

【主な対象者】 新規就農者（45歳未満）

受賞者の紹介



■ 農事功績表彰（緑白綬有功章）

玉置 博行氏（有田川町指導農業士）

玉置氏は、地域でいち早くマルチドリップ栽培技術を導入しました。その技術改良と普及に努められ、高品質みかんの生産拡大に大きく貢献されました。また、吉備町（現有田川町）みかん総合対策推進協議会会長、マル御共選組合長などを歴任され、地域リーダーとしてみかんの消費拡大や都市農村交流活動など地域振興にも尽力されています。



■ 和歌山県農林水産業賞

藤田 哲弘氏（有田市指導農業士）

藤田氏は、有田市農業研究会会長やかん水組合長などを歴任され、地域のみかん生産農家の代表として栽培技術の統一を図られるなど高品質果実生産や地域農業の再編整備に多大な貢献をされました。また、指導農業士として若手農業者の育成や農業体験学習等の食育活動にも尽力されています。

お知らせ

「有田みかんデータベース」では、柑橘類の着花調査結果や温州みかん果実品質調査結果をはじめ、地域内の降雨状況など、みかんに関する色々な情報を発信していますので、ぜひご活用下さい。

URL : <http://www.mikan.gr.jp/> 携帯電話専用

Eメール : arida@mikan.gr.jp URL : <http://www.mikan.gr.jp/i/>

